

文化・芸術

原画名：フェオフィアン・グレーク
「ドンスカヤ聖母」

原画制作年：14世紀末
板、麻布、白亜地、金箔、卵黄テンペラ、乾性油ワニス
60・0cm×45・5cm

田中智恵子

原画を描いたのはビザンチン画家テオフィアネス（1340～1410年ごろ）とその弟子たちと考えられています。フェオフィアン・グレークはロシア語名で、「ギリシヤ人のテオフィアネス」を意味します。モスクワのトレチャコフ美術館に収蔵されている原画は両面画になっており、裏面には聖母就寝図が描かれています。

模写作品を描いた田中智恵子氏はロシアに留学しテンペラ画を学び、現在は大学の非常勤講師を勤めながら修復家としても活躍しています。

テンペラとは主に、卵に水や酢を加えて薄めたものと、色のついた粉（天然鉱物や金属化合物を砕いたもの）を練り合わせて作る絵の具のことです。模写展に出品されている作品の原画が描かれた時代は、絵の具は自作するものでした。模写展の作品では、当時の絵の具の作り方まで研究し実践されています。

（池田）

名画の扉

大川美術館企画展から

